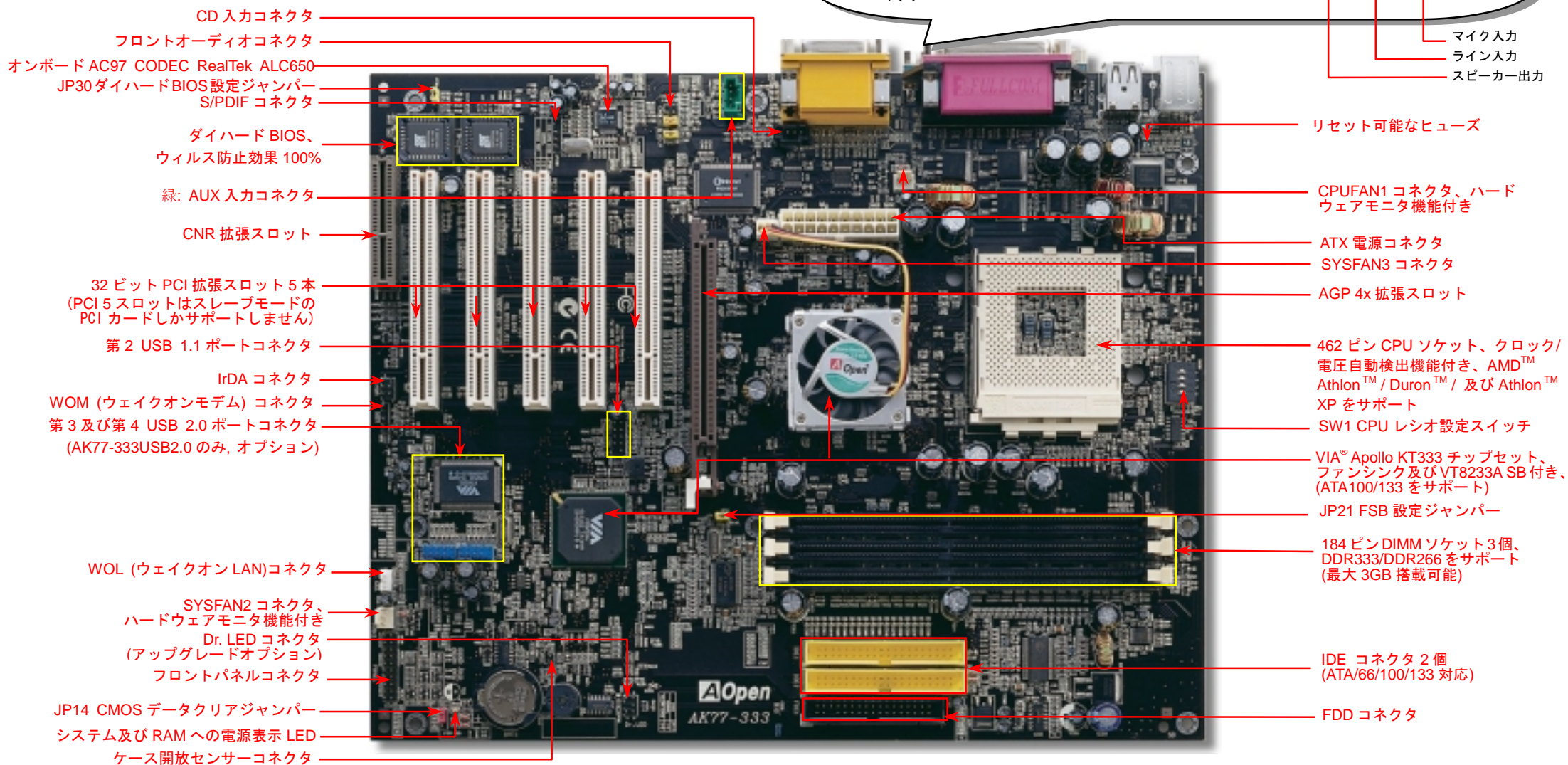
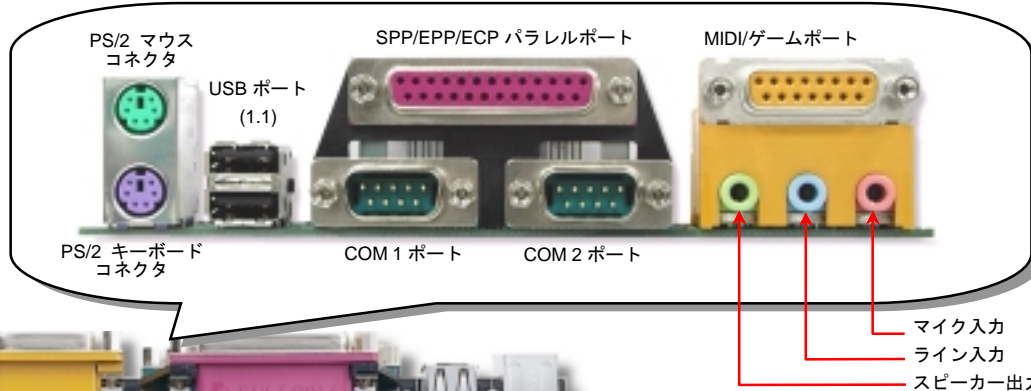


AK77-333



インストールの準備



このマザーボードをインストールするのに必要な情報は全てこのイーージーインストールガイドに載せられています。さらに詳細な情報については**オンラインユーザーズマニュアル**か **Bonus Pack CD ディスク** に付属しています。地球保護へのご協力に感謝いたします。

付属品のチェックリスト

- ✓ 当イーージーインストールガイド 1 部
- ✓ オンラインマニュアル 1 部
- ✓ ハードディスクドライブ IDE ケーブル 1 本
- ✓ 80 芯線 IDE ケーブル 1 本
- ✓ フロッピーディスクドライブケーブル 1 本
- ✓ Bonus Pack CD ディスク 1 枚
- ✓ Norton Anti-Virus ディスク 1 枚
- ✓ USB2.0 ケーブル 1 本(オプション)



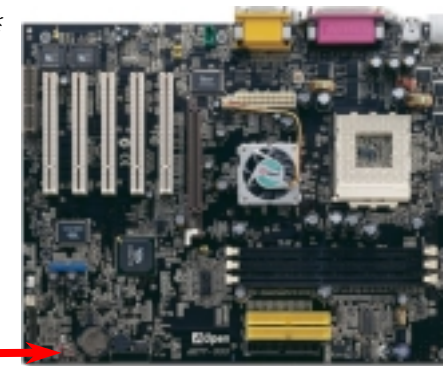
PART NO: 49.8A101.031(M)

DOC. NO: AK77333-EG-J0208C

1. JP14 による CMOS クリア

CMOS をクリアする事でシステムの初期値設定に戻ることができます。CMOS のクリア手順は下記の通りです。

1. システムの電源を切り、AC パワーコードを抜きます。
2. コネクタ PWR2 から ATX 電源ケーブルを取り外します。
3. JP14 の位置を確認し、2-3 番ピンを数秒間ショートさせます。
4. 1-2 番ピンをショートして JP14 を通常の設定に戻します。
5. ATX 電源ケーブルをコネクタ PWR2 に差し戻します。



正常動作の場合
(初期値)



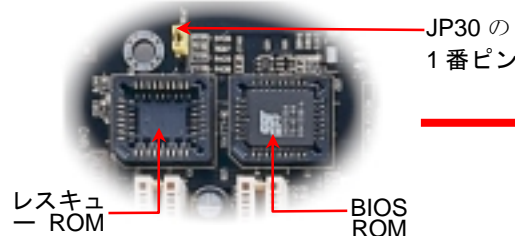
CMOS クリア
の場合

ヒント: CMOS クリアはどんな時に必要?

1. オーバークロック時の起動失敗...
2. パスワードを忘れた...
3. トラブルシューティング...

2. ダイハード BIOS (100%ウィルス防止機能)

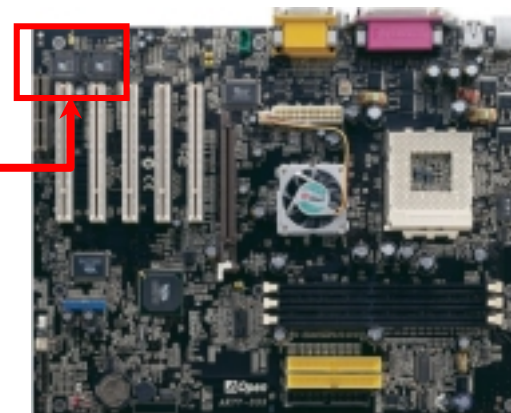
最近では BIOS コードおよびデータ領域を破壊するコンピューターウィルスが多く発見されています。当マザーボードには、ソフトウェアや BIOS コードによらないハードウェアによるウィルス防止装置がありますので、ウィルス防止効果は 100%です。正常動作できない場合に、JP30 を 2 番ピンと 3 番ピンに設定して二番目の BIOS ROM でオリジナルの BIOS に回復することができます。お買い求めのマザーボード上には 1 個の BIOS フラッシュ ROM が実装されています。



正常動作時

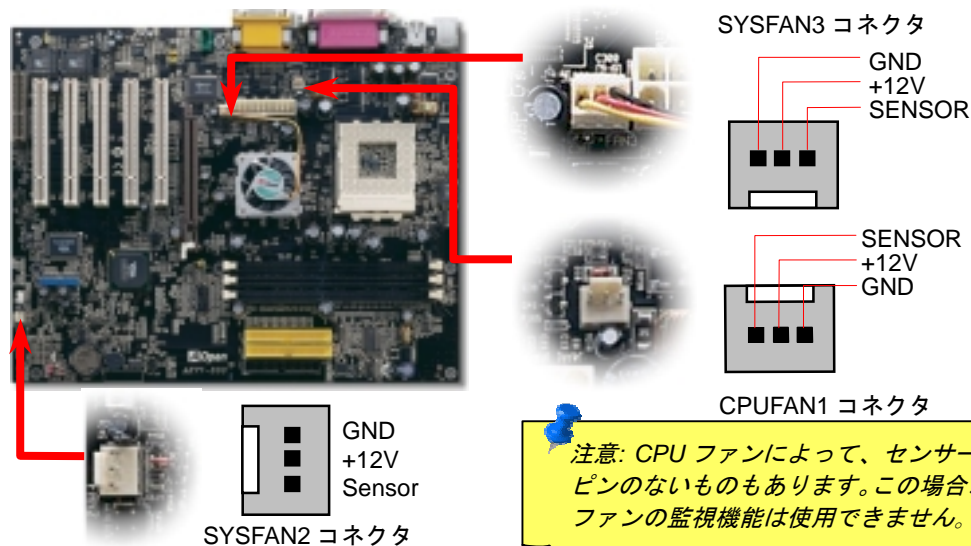


レスキュー時



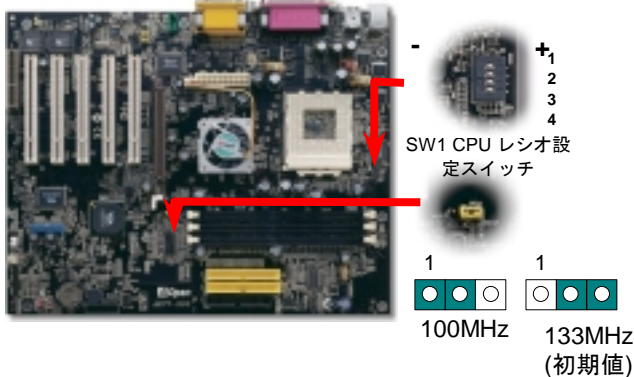
3. CPU 及びシステムファンのインストール

CPU ファンのケーブルを 3 ピンの CPUFAN1 コネクタに差し込みます。ケースファンをご使用の場合に、SYSFAN2 或いは SYSFAN3 コネクタに差し込むことも可能です。



4. JP21 による FSB/PCI クロックレシオ設定

このジャンパースイッチにより、PCI 及び FSB クロックの関係を設定します。一般的には、オーバークロックを行うのでない限り、初期値設定のままにしておくことをお勧めします。ところでこのマザーボードは“1MHz 単位でのクロック調節”機能をオーバークロック用に装備しています。これで CPU FSB クロックを BIOS セットアッププログラムから調節できます。CPU タイプ別に二つの調節範囲があります: 100~129 (FSB=100, Athlon 800 等), 130~248 (FSB=133, Athlon 1000 等)が設定できます。また、BIOS セットアッププログラムのクロックテーブルにより、100~117 (例えば 105, 110, 115 等) 及び 120~156 から特定の FSB クロック範囲を選択することができます。CPU FSB クロックを JP21 で設定すると、“1MHz 単位でのクロック調節”範囲はその設定に従って変化します。



CPU Ratio	SW1-1	SW1-2	SW1-3	SW1-4
5	-	-	+	-
5.5	+	-	+	-
6	-	+	+	-
6.5	+	+	+	-
7	-	-	-	+
7.5	+	-	-	+
8	-	+	-	+
8.5	+	+	-	+
9	-	-	+	+
9.5	+	-	+	+
10	-	+	+	+
10.5	+	+	+	+
11	-	-	-	-
11.5	+	-	-	-
12	-	+	-	-
12.5	+	+	-	-
CPU Default	0	0	0	0

5. CPU 電圧及びクロックの設定

CPU コア電圧の設定

このマザーボードは CPU VID 機能をサポートしています。CPU コア電圧が 1.1V~1.85V の範囲で自動検出されますので、CPU コア電圧を設定する必要はありません。

CPU クロックの設定

このマザーボードは CPU ジャンパーレス設計ですので、CPU クロックは BIOS セットアップから設定可能で、ジャンパーやスイッチは不要です。

BIOS セットアップ > 周波数 / 電圧コントロール > CPU スピードセットアップ

コアクロック = CPU FSB クロック * CPU レシオ

CPU レシオ	5.5xから12.5xまで0.5x単位で
CPU FSB (BIOS一覧表より)	100, 102, 105, 108, 110, 113, 115, 117, 120, 122, 124, 133, 136, 138, 140, 142, 144, 147, 152, 154, 及び156MHz.
CPU FSB (手動による調整)	FSB=100, 100~129の範囲で1MHz単位で調整可能 FSB=133, 130~248の範囲で1MHz単位で調整可能

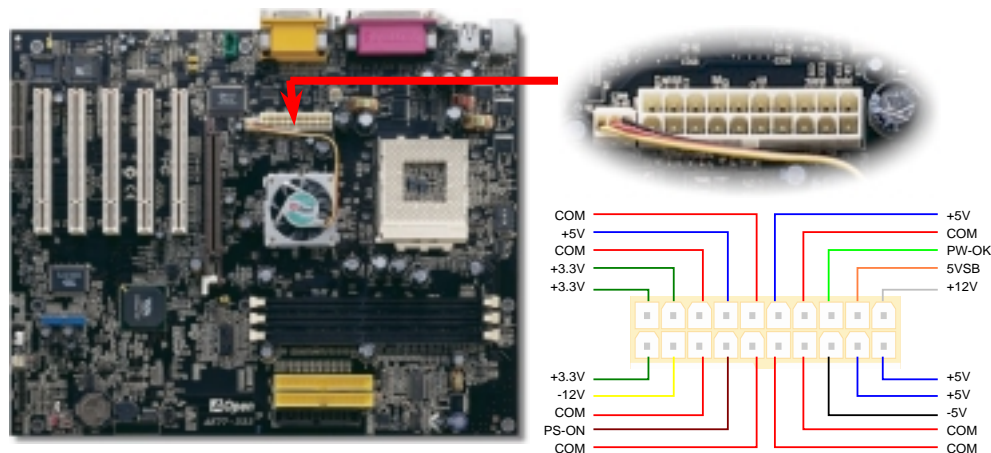
CPU	CPUコアクロック	EV6バスクロック	レシオ
Athlon 1G	1GHz	200MHz	10.0x
Athlon 1.1G	1.1GHz	200MHz	11.0x
Athlon 1.2G	1.2GHz	200MHz	12.0x
Athlon 1.3G	1.3GHz	200MHz	13.0x
Athlon 1G	1GHz	266MHz	7.5x
Athlon 1.13G	1.13GHz	266MHz	8.5x
Athlon 1.2G	1.2GHz	266MHz	9.0x
Athlon 1.33G	1.33GHz	266MHz	10.0x
Athlon 1.4G	1.4GHz	266MHz	10.5x
AthlonXP 1500+	1.3GHz	266MHz	10.0x
AthlonXP 1600+	1.4GHz	266MHz	10.5x
AthlonXP 1700+	1.46GHz	266MHz	11.0x
AthlonXP 1800+	1.53GHz	266MHz	11.5x
AthlonXP 1900+	1.6GHz	266MHz	12.0x
AthlonXP 2000+	1.667GHz	266MHz	12.5x
AthlonXP 2100+	1.73GHz	266MHz	13x
AthlonXP 2200+	1.80GHz	266MHz	13.5x
Duron 800	800MHz	200MHz	8.0x
Duron 850	850MHz	200MHz	8.5x
Duron 900	900MHz	200MHz	9.0x
Duron 950	950MHz	200MHz	9.5x
Duron 1G	1GHz	200MHz	10.0x
Duron 1.1G	1.1GHz	200MHz	11.0x

警告: VIA® Apollo KT333 チップセットは 133MHz FSB (最大 266MHz EV6 システムバスが実現できる)及び 66MHz AGP クロックをサポートしています。それより高いクロック設定はシステムに重大な損傷を与える可能性があります。

ヒント: オーバークロックにより、システム起動に失敗してフリーズした場合は、<Home>キーを押すだけで初期値設定に戻ることができます。あるいは、AOpen “Watch Dog Timer”がシステムを再起動するのを五秒間待てれば、システムがハードウェアを再び自動検査します。

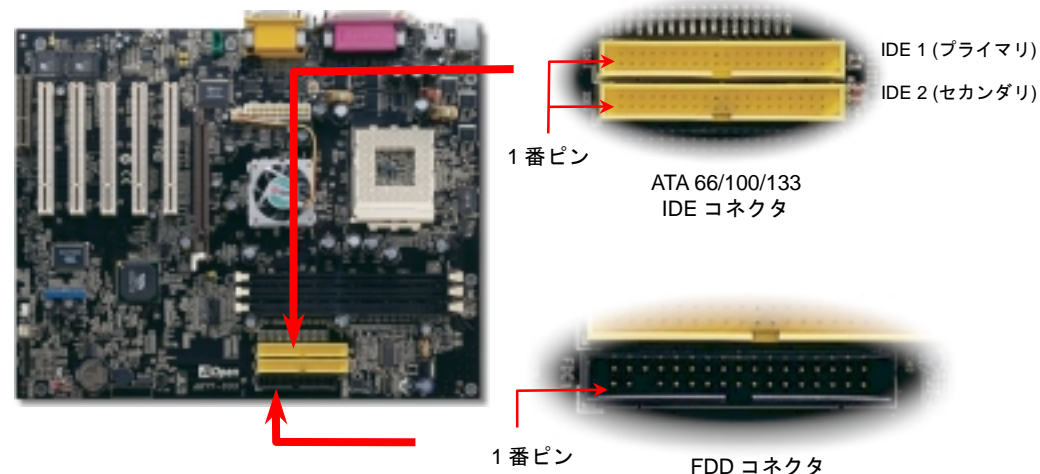
6. ATX 電源コネクタ

ATXパワーサプライには下図のように20ピンのコネクタが使用されています。差し込む際は向きにご注意ください。



8. IDE 及びフロッピーケーブルの接続

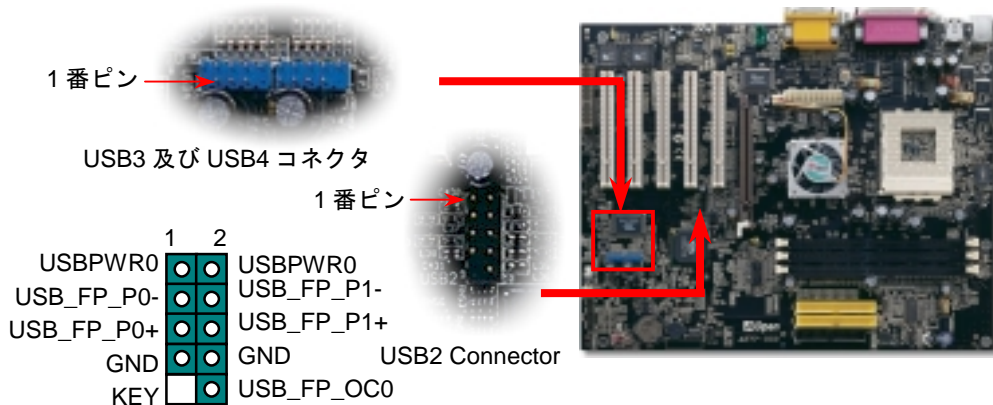
34 ピンフロッピーケーブル及び40 ピン IDE ケーブルをそれぞれフロッピーコネクタ FDC 及び IDE コネクタに接続してください。1 番ピンの向きにご注意ください。間違えますとシステムに支障を来す恐れがあります。



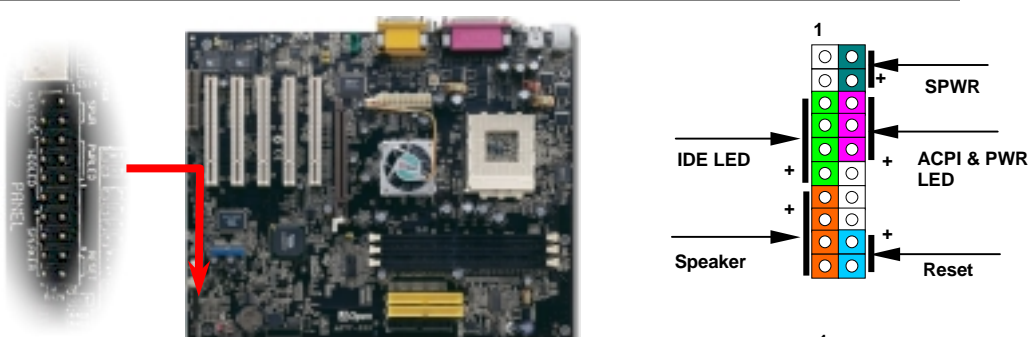
NEW!

7. 第2、第3及び第4 USB ポートをサポート

このマザーボードはマウス、キーボード、モデムやプリンター等のUSBデバイスを接続するのに、[USB](#) コネクタを八個提供しています。二個はPC99バックパネルにあります。適切なケーブルで他のコネクタをUSBモジュールやケースのフロントパネルに接続することが可能です。USB3及びUSB4コネクタはUSB2.0をサポートしています。従来のUSB 1.0/1.1規格では最大12Mbpsの転送となりますが、USB 2.0 (AK77-333のみ,オプション)規格の転送速度はその40倍であり、最大480Mbpsの転送レートを実現しています。



9. フロントパネルケーブルの接続



電源 LED、スピーカー、電源、リセットスイッチのコネクタをそれぞれ対応するピンに差してください。BIOS セットアップで“Suspend Mode”の項目をオンにした場合は、ACPI 及び電源の LED がサスペンドモード中に点滅します。

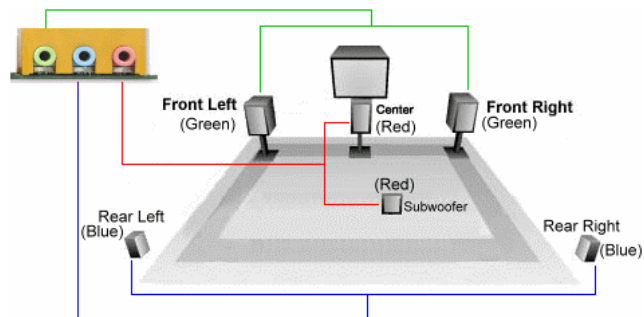
お持ちの ATX 筐体における電源スイッチのケーブルを確認してください。これはフロントパネルから出ている 2-ピンメスコネクタです。このコネクタを SPWR と記号の付いたソフトウェア電源スイッチコネクタに接続してください。

1	NC	NC	+5V	IDE LED	IDE LED	+5V	+5V	GND	NC	SPEAKER
2	SPWR	GND	ACPI LED-	GND	ACPILED	NC	NC	GND	RESET	GND

NEW!

10. 高音質の 5.1 チャンネルオーディオ効果

このマザーボードには高音質の 5.1 チャンネル対応の ALC650 CODEC が搭載され、新鮮な音声が楽しめます。ALC650 の革新的なデザインにより、外部モジュールを接続せずに、標準的なラインジャックでサラウンドオーディオを出力することができます。この機能を使用するには、Bonus Pack CD からオーディオドライバ及び 5.1 チャンネル対応のオーディオアプリケーションをインストールする必要があります。下図は 5.1 チャンネルサウンドトラックにある全てのスピーカーの標準位置を示しています。フロントスピーカーのプラグを緑の“スピーカー出力”ポートに接続し、リアスピーカーのプラグを青の“ライン入力”ポートに接続し、そしてセンター及びサブウーファースピーカーを赤の“マイク入力”ポートに接続してください。

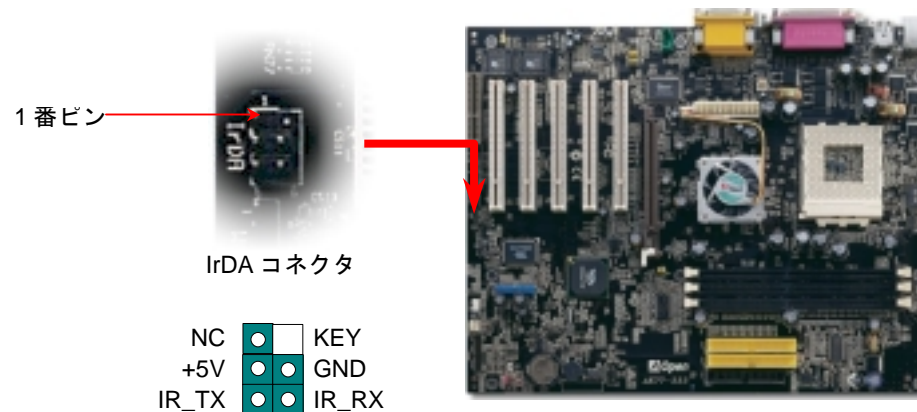


NEW!

12. IrDA コネクタ

IrDA コネクタはワイヤレス赤外線モジュールの設定後、Laplink や Windows95 Direct Cable Connection 等のアプリケーションソフトウェアと併用することで、ユーザーのラップトップ、ノートブック、PDA デバイス、プリンタ間でのデータ通信をサポートします。このコネクタは HPSIR (115.2Kbps, 2m 以内) および ASK-IR (56Kbps) をサポートします。

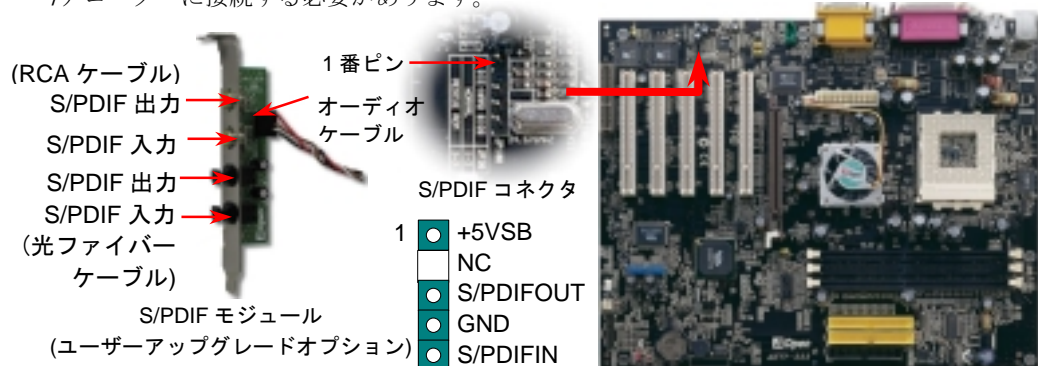
IrDA コネクタに赤外線モジュールを差し込んで、BIOS セットアップの UART2 モードで正しく設定します。IrDA コネクタを差す際は方向にご注意ください。



NEW!

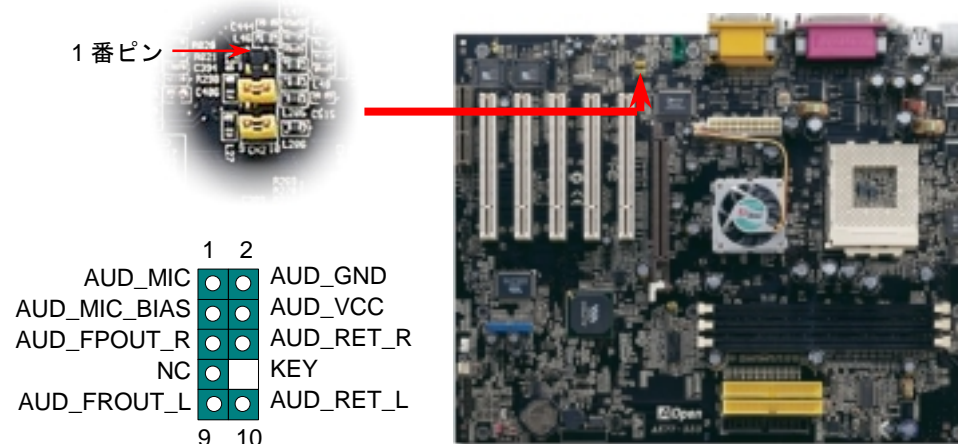
11. S/PDIF (Sony/Philips デジタルインターフェース)コネクタ

S/PDIF (Sony/Philips デジタルインターフェース)は最新のオーディオ転送ファイル形式で、アナログに取って代わるデジタルオーディオを光ファイバー経由で楽しめます。専用オーディオケーブルにより、SPDIF コネクタと別の S/PDIF デジタル出力をサポートする S/PDIF オーディオモジュールを接続します。一般的には S/PDIF 出力は 2 つあり、一方は大部分の消費型オーディオ製品に対応する RCA コネクタ、他方はより高品質のオーディオに対応する光コネクタです。出力と同様に、RCA や光学オーディオ製品をモジュールの入力コネクタに接続し、コンピュータから音声や音楽を出すことができます。ただし、S/PDIF デジタル出力の長所を最大限活かすにはモジュールの S/PDIF 出力を S/PDIF デジタル入力/出力対応スピーカー/アンプ/デコーダーに接続する必要があります。



13. フロントオーディオコネクタ

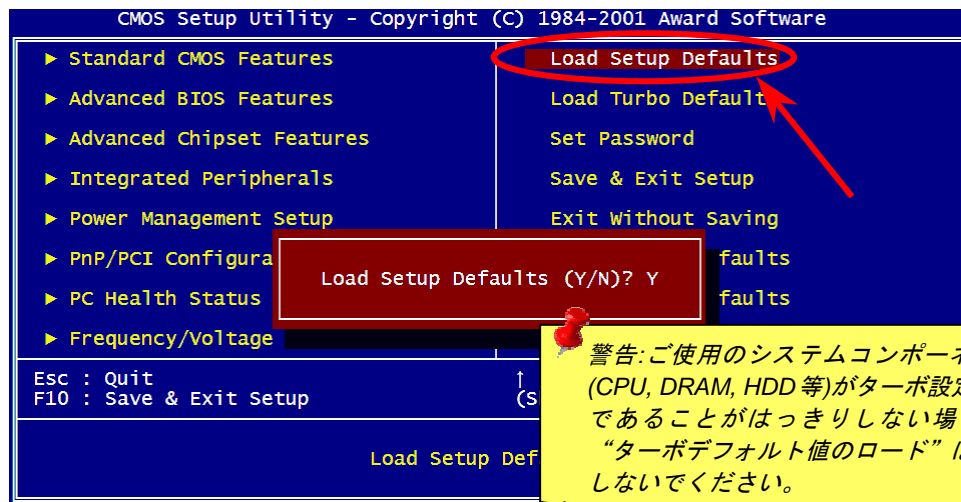
ケースのフロントパネルにオーディオポートが設定されている場合、オンボードオーディオからこのコネクタを通してフロントパネルに接続できます。なお、ケーブルを接続する前にフロントパネルオーディオコネクタから 5、6、9、10 番のジャンパーキャップを外してください。フロントパネルにオーディオポートがない場合は 5、6、9、10 番の黄色いキャップを外さないでください。



14. 電源投入及び BIOS セットアップのロード

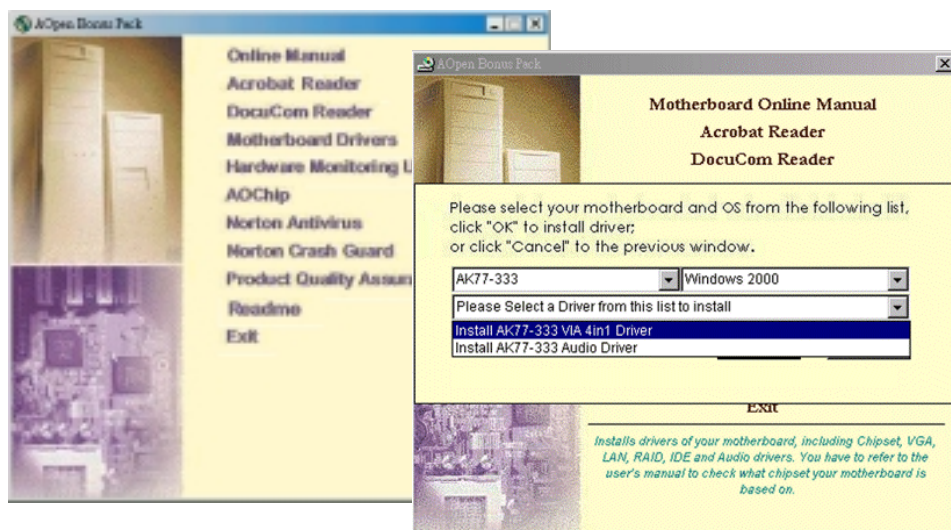
Del

ジャンパー設定およびケーブル接続が正しく行われたら、システムに電源を入れて、POST (電源投入時の自己診断) 実行中にキーを押すと、BIOS セットアップに入ります。最適なパフォーマンスを実現するには"Load Setup Defaults (デフォルト値のロード)"を選択してください。



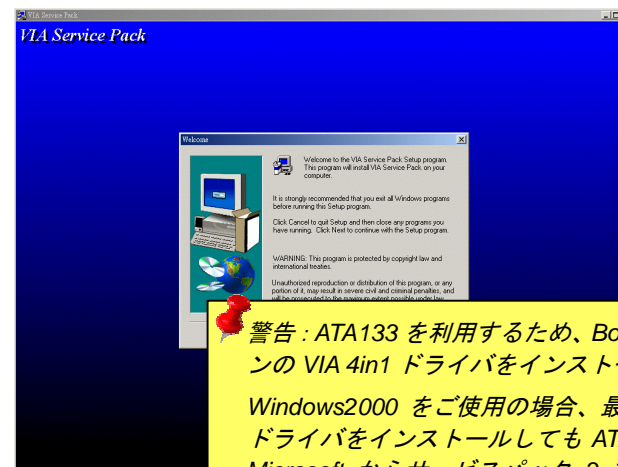
15. AOpen Bonus Pack CD

Bonus CD ディスクのオートラン機能を利用できます。ユーティリティとドライバを指定し、モデル名を選んでください。



16. VIA 4in1 ドライバのインストール

Bonus Pack CD ディスクのオートランメニューから、VIA 4 in 1 ドライバ (IDE Bus master (Windows NT 用)、VIA ATAPI ベンダーサポートドライバ、VIA AGP、IRQ 経路指定ドライバ (Windows 98 用)、VIA 登録 (INF) ドライバ) をインストールできます。



警告: ATA133 を利用するため、Bonus CD から最新バージョンの VIA 4in1 ドライバをインストールする必要があります。Windows2000 をご使用の場合、最新バージョンの VIA 4in1 ドライバをインストールしても ATA133 機能が使えません。Microsoft からサービスパック 3 を新しくリリースしてから機能するようになります。

NEW

17. Windows 環境における BIOS のアップグレード

下記の手順に従って、EzWinFlash で BIOS のアップグレードを完了してください。アップグレードを開始する前に、必ず全てのアプリケーションを終了してください。

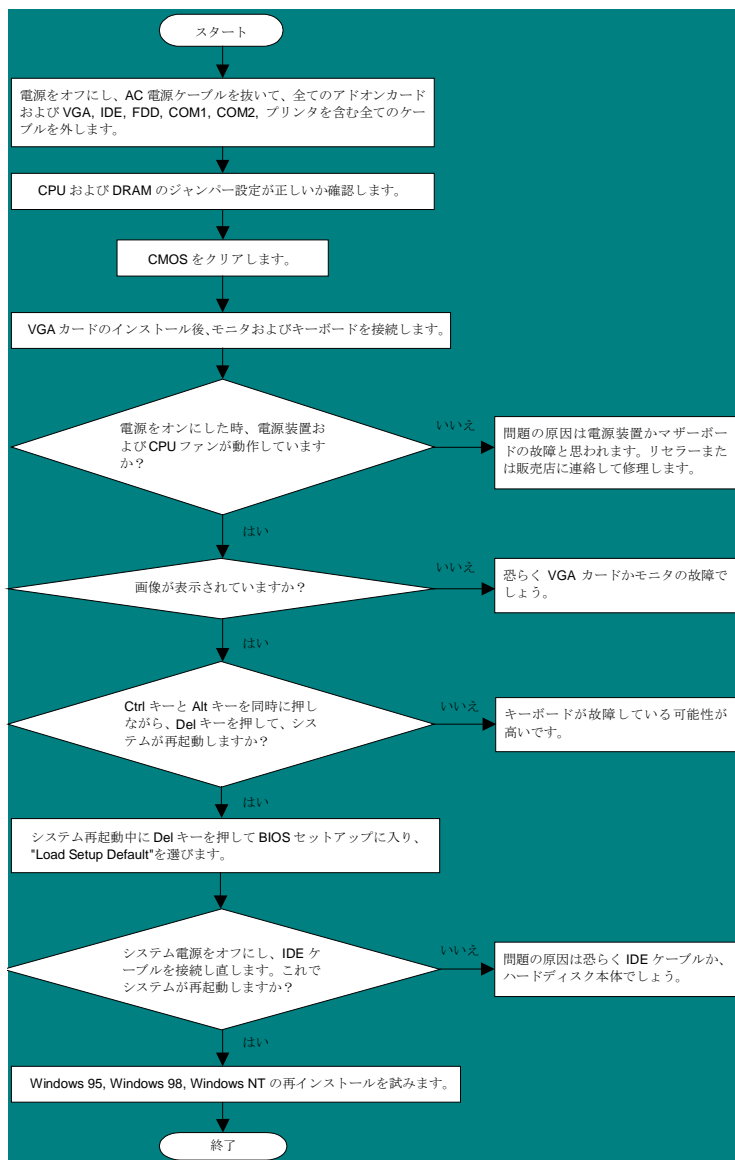
1. AOpen の公式ウェブサイト (<http://www.aopen.co.jp/>) から最新の BIOS パッケージ zip ファイルをダウンロードします。
2. Windows において、WinZip (<http://www.winzip.com/>) で BIOS パッケージ (例えば、WAK77333102.ZIP) を解凍します。
3. 解凍したファイルをフォルダに保存します。たとえば、WAK77333102.EXE 及び WAK77333102.BIN です。
4. WAK77333102.EXE をダブルクリックしたら、EzWinFlash はご使用のマザーボードのモデルネーム及び BIOS バージョンを検出します。BIOS が間違ったら、フラッシュ操作を続行することはできません。
5. 主要メニューから言語の指定を行い、「フラッシュ開始」をクリックしたら BIOS アップグレード作業が始まります。
6. EzWinFlash はアップグレード作業を自動的に完了します。完了後、ポップアップダイアログボックスからコンピュータを再起動するよう聞いてきますので、「はい」をクリックして Windows を再起動します。
7. POST 時にキーを押して BIOS セットアップを起動します。"Load Setup Defaults"を選び、「Save & Exit Setup (保存して終了)」します。これで完了です。

警告: 新しい BIOS のアップグレードにより、フラッシュ後に前の BIOS の内容は完全に置き換えられます。前の BIOS 設定及び Win95/Win98 プラグアンドプレイ情報は更新されますので、システムを再構築する必要があります。



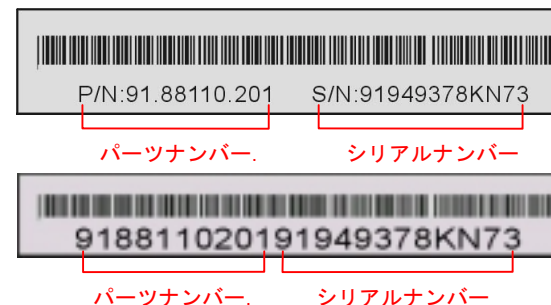
トラブルシューティング

システム起動時に何らかの問題が生じた場合は、以下の手順で問題を解決してください。



パーツナンバー及びシリアルナンバー

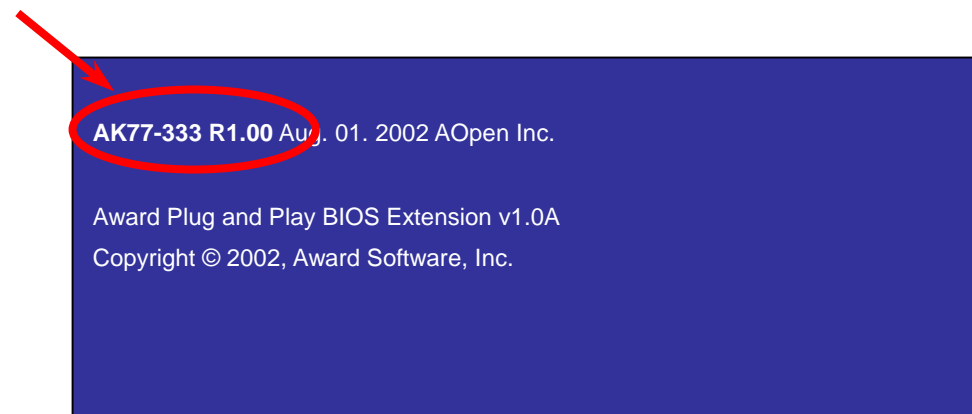
パーツナンバー及びシリアルナンバーがバーコードラベルに印刷されています。バーコードラベルは包装の外側、PCB のコンポーネント側にあります。以下は一例です。



P/N: 91.88110.201 がパーツナンバーで、S/N: 91949378KN73 がシリアルナンバーです。

モデルネーム及び BIOS バージョン

モデルネーム及び BIOS バージョンがシステム起動時の画面 (POST 画面)の左上に表示されます。以下は一例です。



AK77-333 がマザーボードのモデルネームで、R1.00 が BIOS バージョンです。



テクニカルサポート

お客様各位へ

この度は、AOpen 製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。お客様への最善かつ迅速なサービスが弊社の最優先するところでございます。しかしながら、毎日世界中から E メール及び電話での問い合わせが無数であり、全ての方に遅れずにサービスをご提供いたすことは極めて困難でございます。弊社にご連絡になる前に、まず下記の手順で必要な解決法をご確認になることをお勧めいたします。皆様のご協力で、より多くのお客様に最善のサービスをご提供していただけます。

皆様のご理解に深く感謝を申し上げます！

AOpen テクニカルサポートチーム一同

太平洋地域

AOpen Inc.

Tel: 886-2-3789-5888

Fax: 886-2-3789-5899

ヨーロッパ

AOpen Computer b.v.

Tel: 31-73-645-9516

Fax: 31-73-645-9604

中国

艾爾鵬國際貿易(上海)有限公司

Tel: 86-21-6225-8622

Fax: 86-21-6225-7926

ドイツ

AOpen Computer GmbH.

Tel: 49-1805-559191

Fax: 49-2102-157799

アメリカ

AOpen America Inc.

Tel: 1-510-489-8928

Fax: 1-510-489-1998

日本

AOpen Japan Inc.

Tel: 81-048-290-1800

Fax: 81-048-290-1820

ウェブサイト: www.aopen.co.jp

電子メール：下記の連絡フォームをご利用になり、メールでご連絡ください。

英語 <http://english.aopen.com.tw/tech/default.htm>

日本語 <http://www.aopen.co.jp/tech/default.htm>

中国語 <http://www.aopen.com.tw/tech/default.htm>

ドイツ語 <http://www.aopencom.de/tech/default.htm>

簡体字中国語 <http://www.aopen.com.cn/tech/default.htm>

1

オンラインマニュアル: マニュアルを注意深くお読みになり、ジャンパー設定及びインストール手順が正しく行われることを確認してください。

<http://www.aopen.co.jp/tech/download/manual/default.htm>

2

テストレポート: 自作パソコンのための互換性テストレポートより、マザーボード、アドンカード及びデバイスを選択するようお勧めいたします。

<http://www.aopen.co.jp/tech/report/default.htm>

3

FAQ: 最新の FAQ (よく尋ねられた質問) よりトラブルの解決法が発見するかもしれません。

<http://www.aopen.co.jp/tech/faq/default.htm>

4

ソフトウェアのダウンロード: アップデートされた最新 BIOS、ユーティリティ及びドライバをチェックして取得してください。

<http://www.aopen.co.jp/tech/download/default.htm>

5

ニュースグループ: コンピュータの専門家によりポストされたニュースです。勉強をかねて討論に気軽に参加してください。

<http://www.aopen.co.jp/tech/newsgrp/default.htm>

6

販売店及びリセラーへのご連絡: 弊社は当社製品をリセラー及び SI を経由して販売しております。彼らはお客様のパソコン状況をよく知り、弊社より効率的にトラブルを解決することができます。彼らのサービス次第、お客様が彼らに別の製品を購入する意思が大きく左右されます。

7

弊社へのご連絡: 弊社までご連絡になる前に、システムに関する詳細情報及びエラー状況を確認して、必要に応じてご提供を求められる場合もあります。パーツナンバー、シリアルナンバー及び BIOS バージョンなどの情報提供も非常に役に立ちます。